

2023年度（令和5年度）

第2回 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和6年3月25日(月) 18:00～19:00

場所：福山医療専門学校内1階 会議室（リモート開催）

記録者：竹下 順也

出席者：12名

西川 文雄、濱藤 春暉、仁泉 健太郎、佐近 隆二、曾田 修治、橋本 笑子
清水 麻住、竹下 順也

うちリモート参加者：4名

望月 重伸、灰垣 俊志、住田 祐輝、佐々木 伸樹

欠席者：1名

西村 和人

1. 開会挨拶

仁泉副委員長より挨拶

2. 学校長・委員長挨拶

濱藤学校長・委員長より挨拶

今年度を振り返り、各学科より実績報告をいただきたい。その結果および課題、改善方策について以下の視点から評価を行った。評価委員の皆様からのご意見いただきたい。

（挨拶の後、議事録作成の指名と議事録署名人の指名があった）

3. 報告事項

本会議の議長に濱藤学校長、記録者に竹下事務長を指名し、下記の議事審議に入る。

議案 1 2023 年度（令和 5 年度）における実績について、各学科長から実績報告があった。

佐近（作業療法学科 学科長）

2023 年度実績報告について

【目標】

入学生：40 名、退学率：6.0%以下、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：100%

【実績】

入学生：14 名、退学率：5.3%、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：91.4%

（国家試験合格率全国平均：91.3%）

入学生について、目標値を大幅に下回った結果となった。前年度は定員に達していたが、極端な割れ具合には対策が必要である。一番は高校ガイダンスへのアプローチ方法はどうなのか、広報部だけでしっかりとして PR ができているのかしっかり分析しなければならない。場合によっては、学科長（教員）が出向き、対話を持った方が効果的であるのであれば来年度より実施したい。退学率は、1.6 ポイント減少しており、学科の手厚い指導の功績であると感じる。

国家試験合格率については、目標通り全員受験を達成することができ、合格率においても全国平均を上回ることができた。模擬試験の結果は、回数を重ねるごとに平均点を上げることができた。特に第 3 回から第 4 回にかけては、15 点以上向上することができたことは評価すべき点である。これも教員の個別指導が細かくできたと感じる。

現在のカリキュラムについては、「作業療法士」資格取得が最優先であるが、4 年間の中で付加価値のある資格取得も魅力を作る方法も必要である。各業界の資格と照合しながら、作業療法士として質の高い支援ができる人材の育成をしていきたい。

〈模擬試験結果〉

項目	第 1 回 8/18	第 2 回 12/15	第 3 回 1/5 日	第 4 回 1/19 日
受験人数	16	17	17	17
未受験者	1	0	0	0
合格点	168	168	168	168
平均点	176.1	174.1	167.3	189.1

仁泉（理学療法学科 学科長）

2023 年度実績報告について

【目 標】

入学生：40 名、退学率：8.0%以下、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：100%

【実 績】

入学生：40 名、退学率：8.3%、国家試験受験率：97.4%、国家試験合格率：81.1%

(国家試験合格率全国平均：95.2%)

入学生については、今年度も達成することができた。入試広報部との連携も効果的であり、興味のある学生を多く獲得することができた。

退学率については、目標値にあとわずか届かず未達の結果となった。退学者のうち1年生・2年生において、学力低下による脱落者が91%に及ぶため、高校卒業時からのソフトウェア強化していかなければならない。

国家試験合格率については、前年度よりは5ポイント減少し、目標は未達、全国平均と比べても大きく下回り達成できなかった。受験率についても1名未受験者が出てしまい、未達となった。

模擬試験の結果において、第3回まで模擬試験の難易度も高く、なかなか得点できなかったが、第4回では平均点を20点以上向上することができた。まだまだ個別支援が必要な結果となり、教員全員で引き続き取り組んでいきたい。

昨年度より全員受験制度を実施しているが、学力底上げの効果が見られない学生への支援強化が課題となる。来年度こそは全員受験全員合格を目指す。

〈模擬試験結果〉

項目	第1回 8/18	第2回 12/15	第3回 1/5 日	第4回 1/19 日
受験人数	36	37	35	35
未受験者	2	1	3	3
合格点	168	168	168	168
平均点	144.3	137.9	129.9	152.7

曾田（救急救命学科 学科長）

2023 年度実績報告について

【目標】

入学生：30名、退学率：5.0%以下、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：100%

【実績】

入学生：25名、退学率：3.2%、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：88.9%

(国家試験合格率全国平均：94.2%)

入学生については、今年度も未達となった。県外からの需要も高まりつつあるが、オープンキャンパス時の連携等を振り返り、学科の魅力をうまく伝えきれていないと感じる。来年度以降は、体験ガイダンスに教員が出向く回数を増やし、募集につなげていきたい。

退学率については、前年度よりも 1.2 ポイント増加したが、2 名体制ケアが効果的であり、学習低下の見られる学生に対する細かい指導が脱落者減少に繋がっている。引き続き手厚い指導に注力していきたい。

国家試験については、受験率 100%は達成できたが、合格率は未達となった。模擬試験を複数回実施しているが、効果が見られない試験もあるため、時期や業者選定から見直しも必要かもしれない。第 4 回模試については、難易度がかなり高く、平均点は落としたが、国家試験対策としては細かくケアできたので、合格率アップに繋がった。

来年度は、定期的の模試で効果が見られる業者を精査して、国家試験合格率向上に繋げていきたい。

〈模擬試験結果〉

項目	第 1 回 10/12	第 2 回 12/18	第 3 回 1/15	第 4 回 2/28
受験人数	18	18	18	18
未受験者	0	0	0	0
通常合格点	132	132	132	132
必修合格点	44	44	44	44
通常平均点	117.5	123.9	158.3	126.5
必修平均点	36	34.4	45.7	27.4

橋本（看護学科 学科長）

2023 年度実績報告について

【目 標】

入学生：40 名、退学率：10.0%以下、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：100%

【実 績】

入学生：18 名、退学率：12.3%、国家試験受験率：100%、国家試験合格率：83.3%

(国家試験合格率全国平均：87.8%)

入学生については、未達となった。今年度、学科内の体制改善に注力したが、まだまだ問題があると感じる。未経験教員の指導力向上や学生ケアが足りない場面もあり、これが入学生の減少に大きく影響を及ぼしている。現在の教員で、更なる連携力向上を図り、組織力向上に繋げていきたい。

退学率は、前年度よりも 15.6 ポイント減少できた。授業ごとに行う小テスト、そのフィードバック等、学生との小さいコミュニケーションを繰り返すことで改善できたのではないかと感じている。

国家試験合格率については、全員受験は達成できたものの合格率は未達となった。模擬試験を繰り返し、点が取れない学生がどんどん伸びてきている場面があったが、あと数点で不合格となる学生もいた。本科では、模擬試験の一般状況問題の平均点の目標を 7 割以上としており、第 11 回では 180 点を大きく超えることができたが、必修問題が合格ラインを超えず、合格率は全国平均を下回る結果となった。

社会人枠の増加も課題であるので、全国平均を上回り、教育訓練給付金を活用できるように結果を出していきたい。

〈模擬試験結果〉

項目	第 1 回 4/5	第 2 回 5/2	第 3 回 6/17	第 4 回 7/15	第 5 回 8/10	第 6 回 9/16	第 7 回 10/28	第 8 回 11/27	第 9 回 12/1	第 10 回 1/5	第 11 回 1/12
受験人数	19	19	19	19	19	16	18	17	19	18	18
未受験者	1	1	1	2	1	3	2	3	1	2	2
必修合格点	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
一般/状況合格点	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156
必修平均点	35.1	35.7	35.2	39.6	37	36.7	40.1	40.2	39.3	43.3	40.7
一般/状況平均点	130	128	161	165	146	139	158	165	180	176	180

4. 報告に対する意見

仁泉副委員長

各学科の報告事項に関して具体的な提言をお願いします。

望月様（企業等評価委員）

作業療法学科において、模擬試験の動向から国家試験合格まで効果的な指導がかなりできていると感じる。教員定数より2名不足している中で、ここまでの数値を上げることは素晴らしい。比べて理学療法学科は、模擬試験から実績が何も変わっていないが、どうなっているのか。

仁泉（理学療法学科 学科長）

模擬試験時より、学力レベルの成長が見られない学生に対し、全教員で個別支援計画を立てて実施したが、底上げに繋がっていない。教員同士の情報交換が足りないと感じている。担任、副担任と制度を設けているが、教員からの関わり度をもっと高めて、細かくケアしていかなければならない。来年度は作業療法学科に負けない結果を出していく。

望月様（企業等評価委員）

ありがとうございます。また、救急救命学科について模擬試験の回数が作業、理学よりも多いにも拘わらず、効果が見られないと感じる。模擬試験の回数や時期はどうか。

あと看護学科は、いち早く教員体制の安定化を図るべきだと感じる。

曾田（救急救命学科 学科長）

模擬試験の回数は問題ないと考えている。年に2.3回では問題の傾向が掴めないため、今の状態で取り組んでいる。しかし、結果として国家試験合格率に繋がっていない部分もあるので、こちらはしっかり分析しなければならない。時期や回数は、業者の問題傾向を見ながら判断していきたい。

橋本（看護学科 学科長）

ご指摘の通り、教員の入れ替えが激しく安定していないことは最大の課題である。今年も新任教員が入ったが、現在は実習業務や学生支援もしっかりできているので継続したい。来月からも新任教員が入るため、更に労力はかかるが、教員一丸となって組織力を高め、国家試験合格者の排出のために尽くしていきたい。

5. 閉会の挨拶

仁泉副委員長

本日はお忙しい中、本校のためにお時間を頂戴しありがとうございました。問題視すべき課題が多くあり、非常に有意義なお時間となりました。来年度に向けて、一つ一つ改善していくことをお約束します。

本日いただいたご意見は、学校運営に活かしてまいります。貴重なご意見をいただきありがとうございました。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。